

会 議 録

会議名称	第8回 豊岡市新文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会
日 時	2019年12月18日（水） 13：30～15：25
会 場	豊岡市役所 大会議室（2階）
出席者	〔委員〕 藤野委員長、田村副委員長、杉山委員、碓井委員、平岡委員、赤澤委員、樋口委員、木村委員 〔事務局〕 桑井地域コミュニティ振興部参事、櫻田新文化会館整備推進室長、米田文化振興課長、田中係長、真島 (株)シアターワークショップ 伊東、佐藤、東
欠席者	〔委員〕 與田委員、宮下委員、大西委員、平田委員
議題等	1 開会（あいさつ） 2 前回策定委員会のまとめ 3 協議事項 （1）新文化会館整備基本計画（案）について ア パブリックコメント（意見募集）の内容及び市の考え方について イ 新文化会館整備基本計画（案）について （2）その他 4 その他 5 閉会
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回 豊岡市新文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会次第 ・豊岡市新文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会（第7回）資料 ・豊岡市新文化会館整備基本計画(案)に対する意見募集（パブリックコメント）の結果と回答について ・豊岡市新文化会館整備基本計画(案) ・新文化会館整備基本計画掲載記事

〈審議結果は次のとおり〉

1 開 会（あいさつ）〔藤野委員長〕

専門職大学は、現在基礎工事を行っている。いよいよ着工したということで、責任の重さを感じている。2021年1月に竣工予定である。

認可が下りれば、2021年4月から第一期の学生や、教員数十名が来ることになる。4年後の2025年の段階で、教員の家族を含めて500人ほどが豊岡市に移住すると想定している。これは、日本でも類を見ない、大規模な地方への移動である。

経済効果や文化的な刺激は非常に大きいと考えられる。国立の神戸大学の場合、国の補助金が2百数十億円あり、2万数千人の学生のうち約半数が神戸市内に住んでいると仮定され、500億円の経済効果があると考えられている。また、教育機関として、大きな知的刺激を与えている。大学や研究機関があるかどうかは、その地域の存亡に決定的な影響を与える。その点で、豊岡は勝ち組になったと予言してもよいのではないか。

2 前回委員会のまとめ

第7回策定委員会において、委員から出された意見等の確認

3 協議事項

(1) 新文化会館整備基本計画（案）について

ア パブリックコメント（意見募集）の内容及び市の考え方について報告

【質疑応答・意見交換】

発言者	意 見 等
委 員	・ NO. 13「緞帳は、2幕の設置を検討してほしい」という意見の意図は、どのようなものか。
事務局 (市)	・ 演目によって緞帳の使い分けをしたいという意味合いであった。
委 員	・ 緞帳はカラフルで地域性やデザイン性の高いものが多く、演出によっては作品などのイメージにそぐわないため、使用しないケースがある。暗転幕のような飾り気のない黒や濃紺の幕を用意するというのなら分かるが、2種類のデザインに凝った緞帳を用意するのは、あまり意味がないと思われる。
事務局 (市)	・ 参考にさせていただく。
委員長	・ 緞帳を寄付する企業も多い。そのような視点からの発言でもあるのだろう。
	・ No. 4「客席は、1,000席にすべきだと思う」について、横浜は人口370万人に対して2,000席以上、岐阜は40万人に対して700席であるが、どちらも運営の質が高いため、上手くいっている。豊岡も、施設の規模ではなく、運営の質で日本一を取ることを目指すのがよい。しかし、これらのロジックは市民には理解されにくいと考えられるため、丁寧な説明が必要。豊岡では、管理運営計画がより重要だと考える。
事務局 (市)	・ 管理運営計画を策定する中で、そのあたりも慎重に検討していきたい。
委 員	・ 施設規模ではなく運営の質を高めるべきという意見は、その通りだと思う。しかし、1,000人規模のホールが無くなることで、但馬地域での大きな催事はなくなると考えられる。市民から大規模な催事を体験する機会を奪って良いものか。また、600人規模となると、おそらく吹奏楽の催事はジュピターホール等に変更となり、豊岡から撤退してしまう。年間20回ほどの吹奏楽のリハーサル、演奏会などもなくなる。

事務局 (市)	現市民会館は1,118席だが、600席に減った場合、市民がどう思うかが心配である。
委員長	・本市としては、将来人口を考えると、600～800席が適切であると考え る。将来世代に過度な負担をかけないことも重要である。
事務局 (TWS)	・No. 7「席数が減るのであれば立ち見ができるような設計を」という意見 があるが、立ち見席の設置については、防災面等で課題があるのか。
委員長 事務局 (TWS)	・現段階で、客席は2層で計画をしている。立ち見の場所は、縦通路は 避難動線確保のため作れない。よって、1階席後方及び2階席後方に作 ることになる。また、2階にサイド席を作った場合は、その後ろに作 ることも可能。このように、客席の形態によっては、立ち見席を設け ることは可能である。
委員	・立ち見の場所に、臨時の椅子を置くことは可能か。
事務局 (市)	・椅子が置けるスペースを作るならば、その分座席を増やした方がよい となるのではないか。世田谷パブリックシアターのシアターラムに は、腰かけられるバーのような簡易的なものを用意しているが、この ように、通常の座席を置くスペース以下で椅子のようなものを用意す る方法はある。
委員長	・ウィーン国立歌劇場は、立ち見だけで600席ある。日本には立ち見文 化が根付いていないため、多くの立ち見席を設けられる設計にすれ ば、劇場・ホールにおいては、日本初の事例となるといえるのではな いか。
事務局 (市)	・立ち見席については、基本設計において検討していきたい。
委員長	・兵庫県立芸術文化センターは、立ち見スペースに臨時席を置くことも 多い。研究する価値はある。

イ 新文化会館整備基本計画（案）について報告

【質疑応答・意見交換】

発言者	意見等
委員長	・45頁のスケジュールについて、工事が2024年度の上半期には終わる可 能性があるということだが、竣工から開館まで1年近くも必要なのか。
事務局 (市)	・竣工後に備品の購入やスタッフの研修等の習熟期間として必要だと考 える。
委員長	・プレオープンという形でオーケストラ等に演奏させ、音響等を確認し、 微修正をした上で半年後にグランドオープンするというような例も あるが、そのような開館の仕方を想定しているのか。
事務局 (TWS)	・そのようなイメージで考えている。まず、建物の引き渡しを受けてか ら備品の購入やスタッフの育成等に最低でも3ヶ月程度必要である。 その後、実際に小さなコンサートを行うなど、プレ事業の期間がある。 その際は、市民団体の皆さんに協力してもらい、企画していくという 形で進めることが考えられる。協力団体に、初年度の使用料を無料と する代わりに、入場料等を徴収しないこと、音響測定をさせてもらうこ となどをお願いするというやり方をするようになってきている。
委員長 事務局 (市)	・オーケストラピットの有無についての議論も必要である。
事務局 (TWS)	・現市民会館には、昇降式のオーケストラピットはない。5年ほど前、 舞台上に演奏者が上がる演奏会形式でオペラ公演をしたことがある。 秩父では、市民オペラの動きがあったが、それを深く考慮せず設計し

委員長	<p>たため、オーケストラピットはない。前方の座席を外せばオーケストラは入るが、立って演奏する楽器もあるため、どうしても舞台が見えにくくなる。舞台のセットを全てかさ上げすることで対応しているが、それだけで膨大な製作費と時間がかかってしまう。電動でなくとも、少し床を下げられるような工夫をしておけばよかったという話が出ていた。同様に、1,000席規模のホールでは、オペラ等総合舞台芸術をやるようになった場合に苦しんでいる例が複数ある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1,300席規模の豊中市立文化芸術センターの場合は、オーケストラピットを作ったが、手動式であり設営に時間がかかりすぎるため、実際はほとんど使われていないと聞く。全国の事例集め、検証する必要がある。
委員 事務局 (市)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画について、落ち着くところに落ち着いたと考えている。総事業費が56億と大きな数字だが、この予算でよいのか。 ・建設費49億円、総事業費56億円という数字は、近年建設された類似施設の平米単価の平均額を参考に算出している。設計を進める中で、できる限りのコストダウンを検討していく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそもオーケストラピットを使う公演というのは、制作費がかかるものである。そのような公演が、この会館に見合うのか疑問である。経費としても釣り合うのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の場合、演劇ホールにもオーケストラピットがある施設がある。「小さな世界都市」を掲げるのであれば、今後海外のカンパニーの来日があると想定し、オーケストラが入れるような空間を用意して利用の可能性を広げることも必要だと考える。オペラは近年コンテンポラリー化しており、古い作品を新しい手法で上演することが増えている。本会館においても、そういったものの上演は考えてもよいのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・設計の時点で運営主体が明確に決まっていないと、いざ運営する段階で問題が生ずる場合がある。香山壽夫建築研究所の長谷川氏は、日本の公共の劇場建築は、運営をしない者が建てるため、建売住宅と同じだと言っていた。逆に、彩の国さいたま芸術劇場は蜷川氏が、KAAT神奈川芸術劇場は技術監督の眞野氏が設計の段階から関わっていたため、個性的で魅力のあるホールになった。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県立芸術文化センターも、かなり早い段階で技術監督が決まっていた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・KAAT神奈川芸術劇場は、運営主体が、地域の中での劇場の位置づけの目標を持っており、オープン2年程前からプレ事業を多くやっていた。このような活動を通し、劇場の個性も見えてきた。
委員 事務局 (市)	<ul style="list-style-type: none"> ・今の市民会館は、いつまで使用することができるのか。 ・新文化会館が竣工し、現市民会館からピアノなど備品の移動が必要になるが、2024年度中は使用できると考えている。
委員長 事務局 (市)	<ul style="list-style-type: none"> ・スムーズな移行を行い、空白の期間をなるべく短くしてほしい。 ・努める。春頃の開館にした理由としては、例年この時期は利用が少ないため、備品等の引越しがしやすいと想定したことも一つの要因である。
委員 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の資源や産業を生かすような設計をしてもらいたい。 ・ある施設は、市長が変わったことで、運営コストについて、議会が揉めている。運営費の算定の後に、オーケストラピットの議論をしても良いのではないか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・市長が変わったために、予算等が変更になる例は、他の施設でもあつ

委員	た。
委員	・地域性的話もあるが、外観についても、デザイナーの自己満足にならないものにしてほしい。
委員	・パブリックコメントには、高校生達が集うことで治安が悪くなるという意見があった。個人的には、但馬の子ども達は素直でいい子たちとと思っているので、残念に感じた。ハードのデザインなどを工夫することで、子ども達が悪いイメージを持たれないようにしてほしい。また、先の委員の言うように、外観ではなく中身の充実を図ってもらいたい。
委員	・備品については、特殊なものを導入したがために買い替えの際にコストがかかることがある。その点も留意してほしい。また、オーケストラピットを作るくらいなら、他に予算を回してほしい。
委員	・機能性を重視するという意見に賛同する。また、運営について、無いとは思いますが、土日が休みとなり、貸館事業ができないというようなことにならないよう配慮してほしい。議論を通し、基本計画は落ち着くところに落ち着いたと考えている。
委員	・新しいホールは、施設面では充実していると思う。今後、「小さな世界都市」を目指すのであれば、あとは運営面に特徴を持たせ、世界に発信して行ってほしい。
委員	・専門職大学について、国公立の大学で芸術と観光を専門に扱うというのは初めてのことである。ホールと大学がどう関わっていくかが大切。新しい取り組みを通して、日本の文化芸術を取り巻く環境が変わっていけばよいと考えている。現在は、日本の取り組みは孤立しているように感じるため、今後、豊岡の取り組みで世界と繋げていければ良い。東京では、ホール規模の二極化が進んでおり、プロジェクションマッピングを用いたもの等、新しい取り組みも盛んになっているが、そのような状況の中での豊岡のホールのあり方を考えていくことが重要である。
委員	・吹奏楽については課題も多いが、新しい文化会館で新たな文化芸術が発展し、多様性が広がるという点は、プラスに捉えることができるのではないかと。

(2) その他

発言者	意見等
事務局 (市)	・ 昨年の10月から長期間にわたり、様々な視点からご意見をいただき、ありがとうございました。本日をもって、本委員会は解散とする。「新文化会館整備基本計画(案)」は、本日いただいた意見を踏まえ、来年1月に正式な「豊岡市新文化会館整備基本計画」として策定する。
委員長	・ 吹奏楽や合唱は、日本の文化の重要な下地になっている。アートマネジメントを学ぶ学生も、きっかけとして吹奏楽や合唱、ピアノをしてきたものが多い。しかし、オペラなどは、地方の学生にとって身近なものとは言えない。新しいホールができることで、さまざまな文化芸術分野に触れることができるようになると思われる。今後、どのような企画運営をしていくかが勝負になってくると思われる。 ・ 本日の委員会終了後、市長に対し、本委員会の解散と、本委員会が果たしてきた成果などを報告する。

4 その他
特になし

5 閉 会（あいさつ）〔田村副委員長〕

貴重なご意見に感謝する。今後は、ソフト面をどうしていくかが肝になると思われる。時代が変わり、ツールも変わってきている。新しいものに対応していくことも大切だが、先進的すぎても市民がついてこられないため、そのバランスが難しい。

積極的な発信も必要である。現状を的確に捉え、課題を解決していく意識を持ち続けていくことが大切である。